

2004年

12月号

Stage Up

生涯学習情報誌
ステージ・アップ
通巻 No. 136



「冬・二子橋からの落日」：佐藤 尚 画

もくじ

- 2 特集 かわさき市民アカデミー
- 4 生涯学習ア・ラ・カルト
- 6 ぐるーぷBOX/いま地域で学校で
- 7 まち・ひと・多面体/くらし百景 俳壇
- 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085
TEL 044 (733) 5811 (ステージ・アップ直通) E-メール: stage-up@kpal.or.jp

特集

かわさき市民アカデミー

新たな時代をつくる知の探求

受講生が輝く「自主企画講座」

「かわさき市民アカデミー」は、継続的で専門的な学習をする市民大学講座として1993年9月に開校しました。昨年で10周年を迎え、2004年前期までの受講者数は3万8千人を超えました。今年度、市民アカデミーでは、10コースの講座・演習と「川崎学」「夜間講座」「特別講座」の他に、新しくアカデミー受講生グループが企画・運営する「自主企画講座」を実施しています。前期に開催した講座に引き続き、後期も6講座を開設しています。ここで、後期に行われている自主企画講座について紹介します。

話題の作品を読む

- 講師：和田あき子（文学研究家）
横尾 和博（文芸評論家）

02文学コースで文学を学んだ仲間が母体になって、前期から開設しました。最新の話題作を皆で読み解く講座です。後期は、平成16年度上期の芥川賞・直木賞の受賞作品に挑戦しています。

後期からは、アカデミーの文学の講座「現代文学の水脈」で好評を博した文芸評論家の横尾和博先生も講師に加わりました。今、目が離せない作家たちの素顔と作品について皆で読んでいくことで、時代をリアルに感じることができます。まさに、演習ならではの醍醐味、現代文学に触れる瞬間がそこにあります。前期で取り上げた、金原ひとみの『蛇にピアス』をめぐる討議を聞いてみたかったと思いませんか。

名作とは何か、どこが名作か

- 講師：江藤文夫（評論家）
笠原 衛（写真家）

朗読、古文、映像と幅広い指導を受けた仲間たちが中心になって、アカデミーで学んだ知識と養いつつある目（眼）を継続できるようにと、前期から自主講座を開設することができました。「目から鱗」という言葉のとおり、これまで自分勝手に見ていた映像を全く違った視点から理解できるようになる喜びは格別です。

「名作は時代が創り、名作は時代を創る」という評論家の江藤先生と写真家の笠原先生の指導のもとで、名作の多様性や時代ごとの条件、作家の個性また日本人の美意識などについて研究・考察を進めています。



前期に行われた立松和平氏の講演会
(受講生による自主企画)

現代日本経済の展望

- 講師：伊藤正直（東京大学教授）

2002年から「20世紀資本主義、現代ヨーロッパ経済、アメリカ経済、転換期の東アジア経済」などを学んできた受講生で4月から自主講座を立上げました。前期は「成熟社会の経済システム、日本経済の進路、EUの理想と限界、中国経済関係論」などを学んできました。後期からは、より実践に向けた演習にすることをめざして、「アジアの中の日本経済」「日本経済戦略と日本農業の未来」「経済構造変化と日本金融政策」などの個別テーマから対話形式で今後の日本の経済のあり方について学びます。

自主講座で講座と同じ回数を開設しているのは、この演習だけで、全12回のうち、半分の6回に伊藤先生に来ていただき、残りの時間は自主演習というスタイルで進めています。前期は、終了予定時間が長引き、次の講座の方からクレームがつくほど、皆さん熱心に学んでいました。

環境の最先端を知る—都市と環境の共生

●講師：堀内行蔵（法政大学教授）
田中 充（法政大学教授）ほか

明日のために、私たちの子孫のため、また、あらゆる生物のためによりよい環境を残そうと「03環境コース」の有志が継続して環境問題に取り組むことにしました。

このコースでは、市民の視点で参加者が一番知りたいことを中心に国際的な課題から国内の課題まで、幅広く講座が進められています。

フィールドワークがあるのもこの講座の特徴です。前期は、東京湾の埋立地に埋立処分場と風力発電の風車を見学に行きました。後期は、1泊で研修があり、地域ぐるみの環境活動が実践されている長野県飯田市を訪問し、環境マネジメントシステムについて学習してきました。



フィールドへ出て視野を広げる
(東京湾の風力発電を見学)

事前に十分、資料を熟読していった参加者の熱意に対して、飯田市の環境保全課の方も驚かされていたようでした。

少ない費用で最大の効果を上げるため、川崎市環境局の協力を得ていることも講座の幅を広げるのに役立っているようです。

市民社会論をめぐって

●講師：篠原 一（東京大学名誉教授）

篠原先生のもとで、先進の市民社会論を学んできた受講生のグループが「自律的市民として」という明確な意識を持って、後期から自主講座を開くことにしました。今年度からは、アカデミーの学長を勇退された篠原先生ですが、熱心な受講生グループからの要請を受けて自主講座に再登板しています。

講座は月に1回程度ですが、これまで論ぜられてきた市民社会論を包括的に考察し、今後の市民政治を展開するための基礎知識にしようと、戦後日本の市民社会論から新しい市民社会論まで検討しながら、これからの課題を探っていきます。講座の実行委員会では、「近代の変容」と言われるように近代の中心概念が変わってきた今こそ、新しい社会の姿が求められており、その新しい市民社会をつくるための基礎をここで学ぶのだという意欲に燃えています。

美術史から見たレンブラント

●講師：海津忠雄（慶應義塾大学名誉教授）

02美術コースの受講生が中心となり「美術史を学ぶ会」を結成して企画した講座です。グループの結束は固く、受講生が多いため安定した企画が可能となり、当初から通年での講座開設を決定しました。講師の講演（演習形式）と会員の発表、美術館での学習を加えて、構成しています。

受講生の熱意に応じて、海津先生もこの演習のための書下ろしのテキストを用意してくださり、遅刻にも厳しいという緊張感のある演習になっています。前期は、第1章「レンブラントのアブラハム物語」、後期は、第2章「1650年代のレンブラント」という内容で、キリスト教美術についての研究を深めています。

●かわさき市民アカデミー—04後期「自主企画講座」開設一覧

	開設グループ名	講座名	主な講師	期 間	回数	母体となったコース	受講者数
①	映像コース自主講座実行委員会	名作とは何か、どこが名作か	江藤文夫・笠原 衛	10月12日～1月25日	8回	02ことばと映像	33名
②	文学自主講座委員会	話題の作品を読む(Ⅱ)	和田あき子・横尾和博	10月13日～1月26日	8回	02文学	30名
③	自主講座経済実行委員会	現代日本経済の展望	伊藤正直	10月14日～2月3日	12回	02経済	18名
④	04環境コース自主企画講座委員会	環境の最先端を知る —都市と環境の共生	堀内行蔵・田中 充	10月21日～2月3日	11回	03環境(1年コース)	17名
⑤	政治・国際自主講座実行委員会	市民社会論をめぐって	篠原 一	10月7日～3月3日	6回	02政治国際	27名
⑥	美術史を学ぶ会	美術史から見たレンブラント	海津忠雄	10月20日～3月16日	6回	02美術	35名

●アカデミー●

かわさき市民アカデミー「社会活動支援講座」開催

かわさき市民アカデミーでは、通年開設の講座や演習のほかに、年2回「社会活動支援講座」も行っています。10月に開催された講座では、JICA（独立行政法人国際協力機構）のシニア海外ボランティアを体験された方のお話を伺いました。講座参加者の感想を紹介します。

「シニア海外ボランティアからのメッセージ」を受講して

03歴史コース 目黒 康司

シニアの海外ボランティアってどんなものなんだろう。そんな軽いノリでの受講でした。JICA担当者から事業概要の説明がありました。アジア、アフリカ、中南米等開発途上国を対象に現在55カ国830名、累計2163名（内日系社会ボランティアが8カ国52名、累計281名）を派遣中とのこと。応募選定方法、現地での活動状況等の説明があり、続いて紹介映画の上映、OBの活動体験談と質疑応答がありました。



OBは森和郎さん（ボツワナ派遣・指導科目は印刷、美術印刷）と青木清さん（ラオス派遣・指導科目は合気道）。森さんは技術屋らしい実直タイプ、青木さんは体育会系的ではっきりとした口調ながらソフトで包んでいる感じが印象的でした。募集要項には、任地では「異なる風土、風習、歴史、文化、言語、価値観」と「人、物、金等のないないづくし」が基本的条件であり、①自発性と創意工夫の精神。②現地住民と同じ目線で活動。をモットーに強い意志とボランティア精神の発揮が期待されている。とあり、数々の労苦が想像されましたが、2人からの印象は、100%満足でないにしてもまずは「やり遂げた、役に立てた」という充実感が十分に窺われました。

印刷作業の合間に写した現地仲間との和気あいあいのスナップ、合気道指導員の卵で、初段に合格した生徒達との記念写真等の思い出のシーンを交えての報告後、質疑応答。家族協力、食生活、健康管理、言葉の問題等をどうしたのかそれぞれ答えられました。言葉の壁、貧弱な施設等のハードルも、現地人の素直で真面目な学習態度が補ってくれたと語っていました。草の根運動とも言えるこの様なシニアの海外貢献の姿を目のあたりにし、感動を覚えると共に最近忘れていた「日本の力」を思い出し、また一つ元気を貰ったような気分になりました。

生涯学習ア

●たのしむ●

冬の「スポーツ教室」ご案内

冬から春に向けてスポーツ教室で楽しく体力づくりを行い、健康で快適な生活をおくりましょう。皆様の参加をお待ちしております。

① 中原ゴルフ教室（場所：丸子橋ゴルフ練習場）

- ・水曜コース 1月12日(水)～3月16日(水)
 - ・木曜コース 1月13日(木)～3月17日(木)
 - ・金曜コース 1月7日(金)～3月18日(金)
- 10:00～11:30 全10回
受講料 各21,000円 定員各15人

② 中原テニス教室（場所：等々カテニスコート）

- 1月7日(金)～3月18日(金) 全10回
- 初級者コース 9:30～11:00
 - 初中級者コース 11:30～13:00
- 受講料 各13,500円 定員16人



③ エアロビクス教室（場所：川崎市生涯学習プラザ）

- 1月17日(月)～3月28日(月) 全10回
10:00～11:10 受講料6,000円 定員40人

④ 気功太極拳教室（場所：川崎市生涯学習プラザ）

- 1月18日(火)～3月22日(火) 全10回
10:00～11:30 受講料6,000円 定員40人

◆申し込み◆①は12月13日(月)必着。②～④は12月15日(水)必着。往復はがきに教室名及びコース・〒・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話を記し、下記あてにお送りください。

〒211-0064 中原区今井南町514-1

川崎市生涯学習振興事業団 学習推進室

問い合わせ ☎044(733)5572

ラ・カルト

●はぐくむ●

冬の風物詩 黒川でおもちつき

自然いっぱいの黒川青少年野外活動センターで年末年始の伝統行事を体験してみませんか。おもちをついたり、しめ飾りを作ったり、竹細工、焼芋と盛りたくさん。師走の一日、ご家族やお友達と一緒に楽しみませんか。



- ◆日 時 12月23日(祝) 10時～14時 (雨天決行)
- ◆参加費 400円 (もち代、保険など)
- ◆申し込み 12月1日(水)10時から電話で受け付け
- ◆人 数 先着300人(小学3年生以下は保護者同伴)

申し込み 黒川青少年野外活動センター ☎044(986)2511

●さがす●

こんな人がいればと思ったら 教育人材センター

川崎市の学校を退職した教職員が、ボランティアとして皆様のさまざまな学習活動のお手伝いをしています。こんな時、こんな人がいればと探している方はご連絡ください。教育人材の紹介と情報提供をいたします。

次のような人材の紹介をしています

- ☆学習会・講習会などの指導者・助言者や講演会の講師
- ☆趣味の会・同好会などのアドバイザー
- ☆子ども会行事やレクリエーション活動のリーダー
- ☆子どもの教育・学習の相談者

★「人材ガイド」を差し上げます(無料)★

140円切手を同封のうえ、下記へお申し込み下さい。

〒211-0011 中原区下沼部1709-4

川崎市教育会館内 教育人材センター

問い合わせ 教育人材センター ☎044(435)7474

アカデミーと色彩

地域を歩き自然から学ぶ

「旬の会」

「旬の会」は、毎月1回季節に応じて地域の自然を散策し、山野草、昆虫、小鳥などを観察しているグループです。

同会の誕生は8年前。かわさき市民アカデミーの「96川崎学V～川崎の自然環境」で学んだ受講生が、「講座修了後も地域を歩き自然から学び、相互に交流し続けよう」と会を結成しました。

現在の会員は、40代から80代の38人(女24人、男14人)です。大半の会員が、ボランティア(福祉・環境保全・子ども関係・民生委員など)にかかわったり、仕事をしたりとアクティブで、「月に一度仲間と顔を合わせ情報交換できることが楽しみ」とのこと。

自然散策の企画は、「歩く・見る・楽しむ・食べる・遊ぶ」の要素を盛り込み、また、どなたでも参加できるように体力的に無理のないコース選びを心がけています。これまでに、多摩森林科学園(高尾)、自然教育園(目黒)、北里バイオガーデン(相模原)などの近郊を中心に歩きました。「楽しむ」に「学び」をプラスしての散策も多数企画。七沢自然保護センターで、専門家から解説を聞き環境について考えた例会や、葛西臨海水族館で、マグロの生態や水の管理などを学習した例会が特に興味深かったという声が聞かれました。



9月初旬、横浜市戸塚区の舞岡公園の散策に出かけました。ここは、ため池、雑木林、田んぼなどの調和によって谷戸の景観をとどめている場所です。この日の参加は20人。図鑑やカメラを持って園内を巡り観察しています。それぞれに秋のたたずまいをみつけて、くつろいだ表情で談笑していました。

平成9年からの例会は80回を重ねています。自然散策を通して会そのものの活動内容も「旬」の時期にさしかかろうとしています。

(かわさき市民フロンティア 佐藤 忠記)

このコーナーは「かわさき市民アカデミー」の修了生による組織で地域貢献を目的とした「かわさき市民フロンティア」が担当します。

ぐるーぷBOX

やりたいことを元気にやろう

「かわさきシニアリーダーの会」

「高齢になっても家にこもらず、地域の中で助け合い・支え合いながら心豊かに暮らせるように」ときっかけづくりや仲間づくりのサポートをしているのは「かわさきシニアリーダーの会」(池田安磨会長、会員72人)のみなさんです。

同会の誕生は4年前。健康で自立した高齢者を支援する川崎市の施策「生涯現役大作戦」の一環として開催した「シニアリーダー養成講座」を修了した人たちが発足した会です。現在、福祉ボランティア、街の清掃、パソコン教室や趣味の会の開催など、各区でさまざまな活動を展開しています。

今回は、高津区のシニアリーダーの会主催のパソコン教室を取材しました。同会では4月に「パソコン講座入門編」を実施した時、定員をはるかに超える応募があったため、5月から7月にかけて追加講座を行いました。この日のパソコン教室は、その入門編を終了した人たちが対象とした「ワード初級講座」で、定員いっぱいというほどの人気ぶりでした。

講座では、指南役のメンバーがホワイトボードに要点を書きながら基本を説明し、参加したパソコンの得意な同会の7人のメンバーが受講者の間に立って実際の操作手順を教えていました。不安気にキーボードを叩く受講者に、じっくり丁寧

に繰り返してアドバイスしています。その光景は、「先生と生徒」という間柄ではなく、少し先にパソコンを覚えた人が仲間々に教えている感じで実にフレンドリーです。

メンバーの一人は「自分たちのできることで、何か役に立つことはないか、そんな気持ちで活動しています」と笑顔で話していました。

今年5月から会長になった池田さんは「高齢者が元気に楽しく生活ができるようお手伝いしたいのです。これからは区ごとの枠を越えて全員に催し物への参加を呼びかけ、会の充実に努めていきたい」と抱負を語っています。

◆ 問い合わせ ☎・Fax044(844)1767の池田さん



いま地域で学校で

稲作体験を通して「食」を考える

— 柿生中学校 —

麻生区の柿生中学校(串間満子校長、生徒数508人)の1年生(175人)は、地元で農業を営んでいる守谷さんの田んぼ(約700平方メートル)を借りて、稲作の体験を行っています。代掻き・田植え・あぜ草刈り・稲刈りなどの一連の作業を通じて「食について考えよう」というのがねらいです。

10月中旬、長雨の後によく稲刈りができるというので、取材に行きました。早野町会長の高瀬隆雄さんほか3人の方が稲刈りの応援隊です。高瀬さんは「孫と一緒にやるような

気分です毎年楽しみにしています」と笑顔。「この日が待ち遠しかった」という1年生が体操服姿で田んぼに勢ぞろいしました。高瀬さんが、鎌の使い方を説明し「根元から刈る」「10束ずつ根元を揃えてヒモでしばる」「二つに分けておだ架けをする」などの作業をお手本として見せています。生徒たちは「刈る人」「稲を束ねる人」「干す人」に分かれて行動開始です。そばで作業を見ていると、稲を束ねるのに苦戦している生徒が多く、何度も締めなおしをしていました。また、田んぼのぬかるみで足をとられ、思うように進めない生徒もいます。2時間半かけてようやく全部の稲をおだに干すことができました。稲刈り体験を終えた生徒からは「自分たちが田植えをしているので、稲を刈るのはとても楽しみだった」「初めは難しかったけど慣れてきたら楽しかった」という声が聞かれました。

その後、刈り取った稲を2週間程田んぼで干して、脱穀・籾すりを経て精米にするそうです。生徒は、この稲作体験をもとに「稲作の歴史」「お米の特色」などグループごとにテーマを見つけて学習を重ね、さまざまな角度から「食」を追求していくとのこと。来年3月には餅をついたり赤飯を炊いたりして収穫したものを味わう楽しみが待っています。

串間校長は、「地元の方々のお陰です。稲作体験によって地域で色々な人に出会い、素直にあいさつができ、感謝の気持ちが育っていくのではないかと思います」と語っていました。



まち・ひと・多面体

民具を保存し公開する

「多摩ふるさと資料館」高橋榮治さん

使い込まれて黒光りするお膳やお椀、もち手のところが擦り減った鍬や鎌、唐箕などの農具、自在鉤、陶製の火鉢などがずらりと並んでいます。一昔前の暮らしにタイムスリップしたような土蔵の中。道具を眺めていると、農民の息づかいが聞こえてきそうです。

ここは南武線中野島駅から徒歩5分の農家の敷地に建つ「多摩ふるさと資料館」。昨年11月、高橋榮治さんが私財を投じて土蔵を復元し資料館として開館したところです。広さは1・2階あわせて約65平方メートル。衣食住に関する生活用具や農耕具が多数展示されています。これらの用品は全てこの地域の農家で使われていた物で「もう使わないけれど捨てるのは忍びない」と持ち込まれた預かり物だそうです。

高橋さんは、農業改良普及員として長年農政に携わってこられた方です。昭和30年代半ばの高度経済成長を機に、農地の宅地化や農耕具の機械化が進み、これまでの生活が激変し、古くから農家の暮らしを支えていた生活用具や農耕具は姿を消しつつありました。当時高橋さんは、農村の調査・研究をしており、それらを保存しようと自宅の蔵を開放したのでした。その時から「いつかは民俗資料館をつくりたい」という



思いを抱いていたとのこと。そして昨年、40年来の夢が実現、以来週に一度「多摩ふるさと資料館」を無料公開しています。また、小学校の授業の一環として同館を訪れる児童たちに「昔の暮らし」を語ることもあるそうです。

高橋さんは「ここには骨董品も考古学的価値のあるものもありません。でも人々が使った道具から庶民の文化を知ることができます。この場を通してたくさんの人と交流ができれば嬉しい」とにこやかに語っていました。

同館の場所は、多摩区中野島1-7-18。☎044(944)4789。南武線中野島駅下車徒歩5分。公開は毎週土曜9時から16時。事前に申し込みをすれば高橋さんが解説してくれます。

くらし百景

俳壇

恵楽園俳句クラブ

静けさや団栗落ちる音を聞く

永田 一男

いつの間に敬老の日に祝はるる

町角の柿の二つに歩を止めし

田中富美子

爆心地羽をたたみし秋の蝶

何の賞もとらぬ厚物菊ひらく

池田 喜治

人形がかざす饅頭笠の菊ゆるる

わが庭に色よくなりし富有柿

田中 敏彦

菊活けて朝の挨拶かはしけり

夜の更けて虫の音ばかり残りけり

阿部 あい

しばらくは卓に飾らむ次郎柿

柿もぎて土産に持たす母老ゆる

野宮 猛夫

病む妻に夕餼の支度敬老日

何時迄も若くありたい敬老日

細野 広子

秋祭酒の飲めない淋しさよ

色変えぬ松の下ゆく笛太鼓

焼秋刀魚苦みの中に旨さあり

トランペットの淑女や秋は深まりぬ

知恵袋語りつがるる敬老日

イチローの二六二本や柿万朶

秋刀魚焼く匂に帰り道急ぐ

焼秋刀魚苦みの中に旨さあり

*恵楽園俳句クラブは、養護老人ホーム「川崎市恵楽園」に入所している方の俳句クラブです。平成五年から活動をはじめ、現在、部員は八名です。毎月第三火曜日に七曜俳句会同人の佐藤ただを先生にご指導いただいております。月一度の例会ですが楽しいひと時を過ごしております。

情報コーナー **イベントパーク** 講座・コンサート他

●ランチタイムコンサート

12月15日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は佐山雅弘トリオ。曲目は「サテンドール」「クリスマス・ソング」「ジャズ・スタンダード」他。無料。☎(520)0200のミュージア川崎シンフォニーホール。

●第3回ランチタイム・クラシックコンサート
～パイプオルガン・クリスマス・コンサート

12月8日(水)12時10分開演、ミュージア川崎シンフォニーホール。出演は高橋博子(オルガン)。曲目は未定。1回券500円/回数券3000円(7枚綴り)。☎(520)0200のミュージア川崎シンフォニーホール。

●川崎童謡の会～くりすますのつどい

12月13日(月)13時半、高津市民館大ホール。歌とお話は青山恵子。参加費2000円。☎(434)6417の同会事務局。

●玉川大学公開講座

12月開講の「家族で作るクリスマスケーキ」「紅茶の文化と歴史」「スポーツ救急法講座」など5講座の受講生募集。詳細は☎042(739)8895同大学継続学習センター。

●クリエイイト科学館の一般公開

12月12日(日)13時半。常設展示物の体験と解説。毎回テーマの異なる工作コーナー有り。場所は麻生区黒川の発見工房クリエイイト。予約制。対象は小学4年～大人。入館費大人800円、小・中学生500円、工作材料費200円。☎(981)1892。

●東芝科学館実験教室①アトム工房②GEMS探検隊

①は12月4日(土)、10時と13時半。「飛ぶもので遊ぼう」。対象は小学1年以上の親子25組。②は12月18日(土)、10時と13時半。「月と星のミステリー」。対象は午前が小学1年～3年、午後は小学4年～中学生。各30人。教材費は共に500円。要予約。☎(549)2200の同館。

●新春創作教室(小・中学生対象)①陶芸②絵画

①は平成17年1月29日～2月26日の土曜9時半、全4回。②は1月29日(土)2月5日(土)6日(日)13時半、全3回。場所は川崎市青少年創作センター。定員は各30人。費用は①1000円②1700円。☎12月21日(火)までに往復はがきに教室名、氏名、住所、性別、☎、学校名・学年を記し〒214-0034多摩区三田2-3303-1同センター。☎(911)1510。

●新春創作教室(成人対象)①はたおり②絵手紙③草木染

①は平成17年2月1日～15日の火曜10時、全3回。②は2月3日～24日の木曜10時、全4回。③は2月3日～24日の木曜13時半、全4回。場所は川崎市青少年創作センター。定員は①11人②③30人。費用は①3000円②3200円③6000円。☎12月21日(火)までに往復はがきに教室名、氏名、住所、性別、☎を記し、前記創作教室(小・中学生対象)と同じ場所に郵送。☎(911)1510。

●川崎市民プラザ「社交ダンス教室」

2005年1月15日～3月19日の土曜、全10回。初級は10時40分。中級は9時。上級は12時半。受講料12000円。☎受講料を添えてプラザフロントへ。☎(888)3131。

●ミニ画廊スナック「琴」①ネーチャー②写真(風景)

①12月11日(土)まで久保栄の作品。②12月11日(土)～12月30日(木)、福士岩夫の作品。作品の展示は無料。場所は幸区鹿島田。☎(544)0507。

●浮世絵展

12月3日(金)～18日(土)。江戸から現代の日本画・洋画小品展。川崎区の砂子の里資料館。無料。10時開館。日・祝日休館。☎(222)0310。

●プロムナードコンサート出演者募集

川崎市民ミュージアムでは、「逍遥展示空間」等において、定期的にプロムナードコンサートを開催する予定。このコンサートに出演する演奏者を随時募集。楽器はピアノに限りません。自己紹介、演奏希望曲目、住所、氏名、年齢、☎を記し自分の演奏を録音したテープかMDを郵送。〒211-0052中原区等々力1-2 川崎市民ミュージアム。☎(754)4500。

■年末年始休館のお知らせ■

◆川崎市生涯学習プラザ

12月28日(火)から新年1月4日(火)まで
問い合わせ…☎044(733)5560 当事業団総務室

◆新百合トウェンティワン

12月28日(火)から新年1月3日(月)まで
問い合わせ…☎044(952)5000 当事業団新百合分室

かわさき市民アカデミー「講座ブックレット」好評販売中

かわさき市民アカデミーでは、開設講座で行われた講義の一部をブックレットにまとめて販売しています。

No.19「麗しのサンクトペテルブルグ」— 一橋大学名誉教授 中村喜和

前半は、世界で最も美しいといわれる町ペテルブルグの、ロシア帝国の首都としての200年余の、波乱万丈の歴史と魅力的なモニュメント。後半は、日本に関する多くの著作を残したゴンザ少年など江戸から明治時代の日本から漂流等でこの町を訪れ、確かな足跡を残した日本人の物語(650円)

No.20「文学に見る女と男・その愛のかたち～泉鏡花と夏目漱石」— 東京大学名誉教授 久保田淳

泉鏡花「売色鴨南蛮」と夏目漱石「虞美人草」を取り上げ、二人の作家としての生い立ちと、そこに現れた女性観、恋愛観を分析する。後半は、筆者と評論家・江藤文夫の対談。二人の作家の文体や構成の特徴、作品の背後にある文学的伝統の楽しさ、そして明治の日本文学が教科書から消えて読まれなくなったことについて語っている(650円)

◆お申し込みは、かわさき市民アカデミー事務局 ☎044(733)6626/Fax044(733)6697